

# Chapter 5

## The History of Ice Cream

### The Surprising History of Food

#### ■イタリアで発展したアイスクリーム文化

暑いときに食べるアイスクリームは格別なもの。古今東西、アイスクリームは多くの人に親しまれています。ではいったい、アイスクリームはどのようにして生まれたのでしょうか？その歴史から見ていきたいと思います。

中国では紀元前から乳製品を長時間煮た後に雪で冷やして食べるアイスマルクが作られていました。あるとき、アジアを旅していたマルコ・ポーロが北京でこのアイスマルクに出会います。その味にとっても感動した彼は、アイスマルクのレシピをヴェネツィアに持ち帰り、やがてイタリア全土に広がったとされています。

一方で、アラブ諸国では「シャルバート」と呼ばれる砂糖や果物のシロップを氷で冷やした飲み物がありました。長年イスラム圏の支配下にあったシチリアではこの「シャルバート」が定着し、やがて「ソルベット」としてイタリアに入っていきます。これがシャーベットの原形なのです。



#### ■花嫁がアイスとともにやってきた！

1533年、イタリアの大富豪メディチ家のカトリーヌが、後にフランス国王となるオルレアン公アンリ（アンリ2世）の元へ嫁ぎます。このときにカトリーヌは、アイスクリーム職人を含めた料理人たちを連れてフランスに向かい、その宮廷晩餐会でイタリアの料理をふるまいました。ここで出されたアイスクリーム



に多くのフランス人たちが驚き、やがてフランスにもアイスクリームが根付いていきます。

また、カトリーヌの孫娘であるアンリエット・マリーがイングランド王チャールズ1世と結婚する際に、同じようにアイスクリーム職人を連れて行きます。チャールズ1世はアイスクリームに夢中になり、職人たちに様々なアイスを考案させました。そのレシピの一部は、今もなおイギリスで作られています。

女性たちの結婚がアイスクリーム文化を広めたとは、なんともおもしろい歴史ですね。

#### ■世界一アイスクリームを消費する国・アメリカへ

1700年ごろ、アメリカにアイスクリームがもたらされ、この地で急速に発展していきます。

当時、宗教上の理由から日曜日にソーダの販売を禁止されていた地域がありました。そこで人々は、代わりにチョコレートかけたアイスクリームを日曜日限定で販売したところ、大人気に！これがアイスクリームにチョコレートやシロップかけた「サンデー」(sundae)の由来だと言われています。

また、セントルイスで開かれた万国博覧会でウエハース状のワッフルを焼いていたアーネスト・ハムウィは、隣のアイスクリーム屋さんが皿を切らして困っているのを見て、アイスクリームをワッフルで巻いて販売しました。これが今のアイスクリームコーンの始まりです。

今ではアメリカは世界一のアイスクリーム消費国。旅行をするときは、是非一度、日本では考えられな

いぐらいにボリュームたっぷりのアイスクリームを味わってみてください。

### ■世界のアイスクリーム事情

ねばりけが強いアイスが日本でも人気のトルコ、アイス売りの自転車が街を走り回るベトナム…。世界中で今日もアイスクリームが食べられています。暑いときに食べるイメージの強いアイスですが、実は極寒の地・ロシアでも大人気！ 水分を補給するような感覚で多くの人々が寒い土地でアイスを楽しんでいます。

電力事情の厳しいアフリカでは、アイスクリームは今も高級品です。主に商売巧みな外国人が経営するアイスクリーム屋を街で見かけます。アフリカで毎日のように食べられる日が来るのは、もう少し先になりそうです。

日本国内でも独自に研究が重ねられていて、中でも水飴などで練ったあんをアイスマイルクで固めた「アイスマんじゅう」には、世界のお菓子コンテスト・モンドセレクションでたびたび登場している種類もあります。

冷たくておいしいアイスクリーム。その歴史や世界の事情を考えると、今後も研究がさらに重ねられて、どんどん進化していくかもしれませんね。

